



令和8年度(2026年度) ▶▶▶ 令和12年度(2030年度)

概要版

しもやまスマイルプラン

《後期プラン》

しもやまスマイルプランって何？

この「しもやまスマイルプラン」は、私たちが住む下山を子どもたちの世代に引き継ぐために、将来の下山について考え、描いた未来の姿を実現するための行動計画です。



下山の5年後の将来像



子どもの声が聞こえ、
笑顔で暮らせるまち しもやま



みんなできずす下山のまちづくりの方向性

下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」の減少を抑える取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による地域活動を次世代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境をつくります。

分野別プラン

「分野別プラン」では、定住・移住、子育て・教育、健康・福祉など以下の11の分野について、下山全体で取り組むべき施策と具体的な事業を定めています。

主に下山地域まちづくり推進協議会の構成団体（里楽暮らししもやま会、下山商工会、各自治区など）や豊田市下山支所などが中心となって、下山全域の課題解決に貢献する柱となる施策を推進します。



後期プランでは、以下の4つの項目について、重点的に取り組んでいきます。

項目	後期プランで取り組む方向性
定住・移住	「住みよさ」と「定住意識」の向上 生活利便性の向上と定住・移住施策の充実により、特に若年層・子育て世代の住みよさの向上を図ります。
観光	次世代が地域に誇りをもてる観光まちづくり 体験プログラムの開発や環境整備による地域資源の磨き上げや、戦略的な情報発信を関係者が主体的に取り組むことで観光まちづくりを推進します。
農地保全	省力的な管理手法の導入と新たな担い手の確保 耕作放棄地の解消に向け、地域外人材も含めた担い手の育成や、粗放的な農地管理（手のかからない管理）を推進します。
基盤整備	生活道路の計画的整備と安全対策の推進 住民生活に直結する道路の整備・補修を着実に進めるとともに、交通量変化に対応した安全対策を行います。

しもやまスマイルプラン《後期プラン》（概要版） 令和8年3月

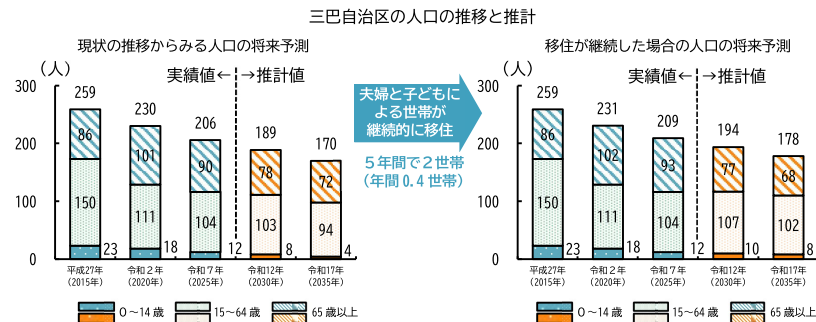
発行：下山地域まちづくり推進協議会（事務局 豊田市役所地域活躍部下山支所）
TEL 0565-90-2111 メール shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



※本編は豊田市ホームページからご覧ください。

三巴自治区の人口データ

- 三巴自治区には、98 世帯、206 人の方が住んでいます（豊田市住民基本台帳、令和 7 年 10 月 1 日現在）。
- 令和 12 年には 189 人と、今後 5 年間でさらなる減少が予想されていますが、継続的に若い世代が移住すると、人口構成の回復が期待できます。



三巴自治区の今後5年間の取組

● 取組1：定住・移住を促進して人口の維持をめざそう

里楽暮らしもやま会や役員と連携しながら空き家・空き地の発掘・活用に継続的に取り組み、移住者やUターン者の増加をめざします。また、定住者と移住者、地域外に転出した方との交流の機会となるよう、花見などの交流事業を継続的に実施します。

● 取組2：農地や山林を継続的に維持管理しよう

地域内には多くの農地や山林があります。地元住民だけでなく、地域外のボランティアの協力を得ながら、農地や山林の管理を継続して行います。特に農地に関しては、イノシシ、シカ、サルなどの獣害対策に引き続き取り組みます。

● 取組3：自然の良さを守り、育てよう

自然環境の良さを守るため、引き続き草刈りや環境整備を実施します。また、河津桜の手入れや、ホタルやササユリなどの生息環境を整える活動を継続し、美しい景観づくりを進めます。

● 取組4：地域活動の維持や発展に取り組もう

お祭りや巴太鼓などの伝統行事を大切に、後世に受け継ぐように保存活動を行います。これらの地域の行事や今ある取組を活用しながら、転入者や嫁いできた方などが、地域に溶け込むことや情報を得ることができるよう交流の場を作ります。

また、地域活動を維持していくため、役員の仕事の役割分担などの見直しを行い、負担を減らす工夫をして担い手を確保します。



三巴自治区の5年後の将来像

- 地域外に転出した人たちとも良好な関係が築かれており、関係人口が維持されています。
- 空き家や空き地が増えても放置されることなく、移住者用の住宅などとして活用されています。
- 隣近所のあいさつや会話が日常的に行われ、支え合いや見守りなど暮らしの安心が感じられています。
- 若者の定住や移住が進み、子育て世帯にとって住みやすい地域になっています。
- 地域外の人の力も借りながら農地や山林が守られており、農業や林業の担い手となる人も出てきています。
- 河津桜を育む活動が多くの人々の参加により行われており、春には花見に訪れる人が増えています。
- ホタルが生息しやすい環境づくりが続けられ、初夏にはホタルが飛び交う風景が見られます。
- 自治区や組の運営・行事は、負担の少ない形に変えながら引き継がれています。
- 巴太鼓などの伝統芸能やお祭りなどの行事が守り続けられており、子どもや高齢者、地域外に転出した人にとっても「三巴の誇り」となっています。



	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：定住・移住を促進して人口の維持をめざそう					
①花見など交流事業の継続					
②里楽暮らしもやま会や役員と連携した空き家・空き地の発掘					
③地域ふれあいサロンでの交流					
2：農地や山林を継続的に維持管理しよう					
①獣害対策メッシュの設置・交換の推進					
②地域外のボランティアの協力による山林の管理					
3：自然の良さを守り、育てよう					
①河津桜の手入れの継続 草刈（年2回）、剪定（3年おき）、支障木確認（隔年）					
②ホタルの生育環境の維持、「ホタルをみる会」の開催					
③ササユリの保全					
4：地域活動の維持や発展に取り組もう					
①地域活動や役員の仕事の役割分担の見直し					
②お祭り、巴太鼓など伝統文化の継承					
③地域の祭礼の機会を活用した交流の実施					

